

世界のあしたが見えるまち。



研究室にて

国土交通省 国土技術政策総合研究所
下水道研究部 下水道研究室

Yumi Nakamura 中村 裕美 さん(27)

新潟県生まれ。日本大学理工学部土木工学科卒業後、同大学院環境水理研究室を経て、国土技術政策総合研究所に入所。現在は同研究所の下水道研究室で落葉の堆積が雨水樹蓋の排水能力に与える影響について研究を行う。

つくばで輝く
女性研究者

《冠水要因を探る》
落葉が雨水樹蓋（ますぶた）に堆積することで発生する道路冠水のメカニズムを下水道からアプローチする研究を行う。冠水被害などの都市災害が近年顕在化し、3年前に冠水現場の調査を実施。実物大の実験装置で落葉の種類や堆積量、雨水樹蓋の種類や流量などを変化させ、落葉が樹蓋の排水能力に与える影響を調査。道路管理者などの協力も得て、防災の役割も担う下水道の研究を行う。「落葉が多い時は排水能力が落葉のない時に比べて2割程度まで低下し、道路冠水を起こす可能性があります。実験で得られた結果の考察を重ね、減災に役立てたい。」



雨水樹蓋の排水実験風景



平沢宮街遺跡の万灯まつりでの太鼓演奏

都市災害の軽減に
下水道から挑む

《自然環境への関心》
新潟県妙高市に生まれ、自然豊かな環境の中で育った。両親の仕事の関係で小5のときに東京に転居。高校卒業まで都会暮らしを経験する中で、祖母と遊んだ妙高時代を原点とする「自然環境への憧れ」は日々鮮明になっていった。海洋科学への興味もあつたが、進学した大学では土木工学を専攻。「海や

つくばの暮らし

川に関心があったので、土木工学の中でも水理学を深く勉強したいと思いました。環境水理研究室を経て、同研究所に入所。現在は下水道に係わる現地調査や模型実験を行う。「現場が身近にあり、研究室での疑問もすぐに相談できる職場環境です。自分一人では難しい研究でも、さまざまな人からの助言をもらいながら進めていきたい。」

つくばに住んで4年目。「東京と違い昼夜の区別が明確なので、オンラインの生活リズムが作りやすくて快適です」。研究所ではテニスと太鼓のサークルで活動。研究所対抗テニス大会に出場するほか、平沢宮街遺跡の万灯まつりや市内イベントで太鼓の腕前を披露。地域イベントにも積極的に参加。週末にはバイク仲間とツーリングを楽しむ。「職場の上司宅で経験した豪快な流しそうめん大会には驚かされました。自然の魅力を享受できるつくば暮らしを楽しんでいます。」